

中学生が挑戦・地域に学んだ1週間

トライやる・ウィーク

中学生が職場体験などを通して地域に学ぶトライやる・ウィークが5月29日から6月2日までの5日間実施されました。今年は、市内10中学校の2年生941人が市内の296事業所で、それぞれの思いを胸に、貴重な体験に挑戦しました。

この取り組みが始まった経緯や目的、また、今回のトライやるを終えてのそれぞれの感想を紹介します。



▲地域の方とふれあいながら、さまざまなことを学ぶトライやるの生徒

■始まったきっかけは？

平成7年1月の阪神・淡路大震災では、生命や人権を尊重する心、ボランティア精神、共に生きる心など多くの貴重な体験や教訓を得ました。また、平成9年には神戸市須磨区で少年による児童殺害事件が発生し、人間としての在り

方・生き方を改めて考えさせられる問題もありました。

兵庫県では、これらを教訓として「生きる力」と「心の教育」の充実を図ることが必要という認識を深め、子どもたちが自分なりの生き方を見つけられる取組みとして、平成10年、県下の公立中学校2年生全員を対象に、1週間の長期体験活動「トライやる・ウィーク」が始まりました。

■トライやるのトライとは？

「トライ」の名称は「挑戦する（トライ）」とともに「学校・家庭・地域社会の三者（トライアングル）」の意味が込められています。具体的には、子どもはいろ

トライやるの感想

いろいろな体験をするべきという思いと、先生と親だけでなく地域のみんなで子どもを育成しようというものです。

●生徒

- 自分の並べた服を買ってもらえてうれしかったです。
- 園児たちと砂遊び、風車作り、絵本の読み聞かせなどをして楽しかったです。
- 作業はとても疲れたけど頑張りました。自分で「責任感」を感じることができて良かったです。

●地域社会指導ボランティア

- 高齢者への接し方がとてもやさしく、腰を低くして話ができいました。
- よく気が付き、動きも速く仕事をよく見えています。タオル干し、手のマッサージ

も覚ええました。

●お客さんからラーメンの注文を受けて作っていただき、上手にできました。

●家庭

- 園児たちからも寄ってこられ、ニコニコしながら対応している笑顔が生き生きとして素敵でした。
- 私服で活動していましたが、お店の雰囲気合い、本当の店員さんのようでした。
- とても充実した時間を過ごすことができたようで、事業所の皆さんに感謝します。

●学校

- 緊張した表情で熱心に話を聞いている生徒たちや、期待に胸膨らませて笑顔一杯であいさつしてくれる生徒たちなどさまざまな表情が見られました。
- 《問合せ》学校教育課

■トライやる・ウィーク 参加生徒数・受入事業所数

学校名	生徒数	事業所数
豊岡南	241人	63カ所
豊岡北	212人	66カ所
港	34人	14カ所
城崎	33人	13カ所
竹野	48人	16カ所
森本	21人	7カ所
日高東	110人	31カ所
日高西	69人	24カ所
出石	111人	39カ所
但東	62人	23カ所
計	941人	296カ所

小学5年生の自然学校 5泊6日で自然体験

市内30小学校の5年生895人が5月15日から6月24日までの間、12グループに分かれて5泊6日の自然学校を終えました。

自然学校は昭和63年から始まり、今年で19年目を迎えるもので、学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会とふれ合い、さまざまな体験活動を通じて「生きる力」を育成することを目的としています。

竹野町、出石町、但東町は町内全小学校の連合で、日高町は中学校区2地区に分けて連合実施し、学校間の交流を図りました。



▲自然の中でブランコ作り体験をする子どもたち